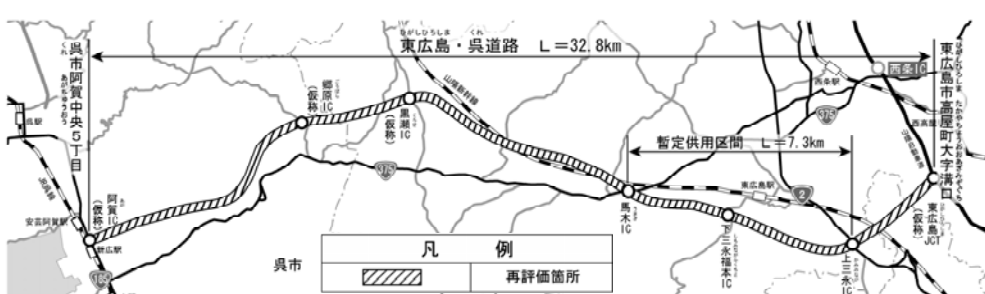


再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道防災課
担当課長名：下保 修

事業名	東広島・呉自動車道 一般国道375号 東広島・呉道路	事業区分	一般国道 (高規格B)	事業主体	中国地方整備局
起終点	自：広島県呉市阿賀中央5丁目 至：広島県東広島市高屋町溝口	延長	32.8km		
事業概要 東広島・呉道路は、山陽自動車道、広島呉道路とともに広島都市圏東部地域で循環型高速ネットワークを形成する高規格幹線道路で、沿線都市間の交流・連携を促進させ、地域の発展に寄与する延長32.8kmの自動車専用道路である。					
H5年度事業化	H2年度都市計画決定 (H16年度変更)	H5年度用地着手	H7年度工事着手		
全体事業費	1,925億円	事業進捗率	62%	供用済延長	7.3km
計画交通量	16,700~24,700 台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.9 (残事業) 4.5	総費用 (残事業/事業全体) 815 / 2,010 億円 事業費：676/1,872 億円 維持管理費：139/139 億円	総便益 (残事業/事業全体) 3,656 / 3,780 億円 (走行時間短縮便益：3,348/3,464億円) (走行経費減少便益：213 /215 億円) (交通事故減少便益：95 /100 億円)	基準年 平成19年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C= 5.2 (交通量+10%) B/C= 3.8 (交通量-10%) 事業費変動：B/C= 4.1 (事業費+10%) B/C= 4.9 (事業費-10%)					
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（呉市から広島空港までのリムジンバス所要時間の短縮が見込まれる） ・物流効率化の支援（重要港湾呉港から山陽自動車道へのアクセス向上が見込まれる）他13項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 東広島・呉道路は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、呉市、東広島市、竹原市、江田島市、熊野町の首長で構成される「東広島呉自動車道建設促進期成同盟会」により、一層の建設促進について要望（平成19年11月7日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 広島大学の総合移転、近畿大学工学部の移転統合、及び広島中央テクノポリスの建設による急速な発展に伴う自動車交通の増加が、国道375号の慢性的な交通混雑を引き起こすとともに、広域交通拠点（広島空港、重要港湾呉港、新幹線東広島駅、山陽自動車道西条IC）へのアクセスを阻害している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成18年度末時点で、用地買収については92%が完了。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成19年11月に、上三永IC～馬木IC間7.3kmを供用済。平成20年代半ばの暫定2車線供用を目指し、事業を進めているところである。					
施設の構造や工法の変更等 新技術の活用（アフターポンド工法、PCコンボ橋の導入）等によりコスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図 					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。